

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3069109号
(U3069109)

(45) 発行日 平成12年6月6日(2000.6.6)

(24) 登録日 平成12年3月8日(2000.3.8)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

B 6 5 D 25/06

B 6 5 D 25/06

A 0 1 K 97/06

5 0 1

A 0 1 K 97/06

5 0 1

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号

実願平11-8839

(22) 出願日

平成11年11月19日(1999.11.19)

(73) 実用新案権者 598041234

株式会社リングスター

大阪府大阪市東区東中浜3丁目18番8号

(72) 考案者 唐金 昭次郎

大阪府大阪市東区東中浜3丁目18番8号

(72) 考案者 唐金 重次

奈良県生駒市小明町707-9

(72) 考案者 唐金 吉弘

大阪府大阪市東区東中浜3丁目19番16号

(74) 代理人 100103654

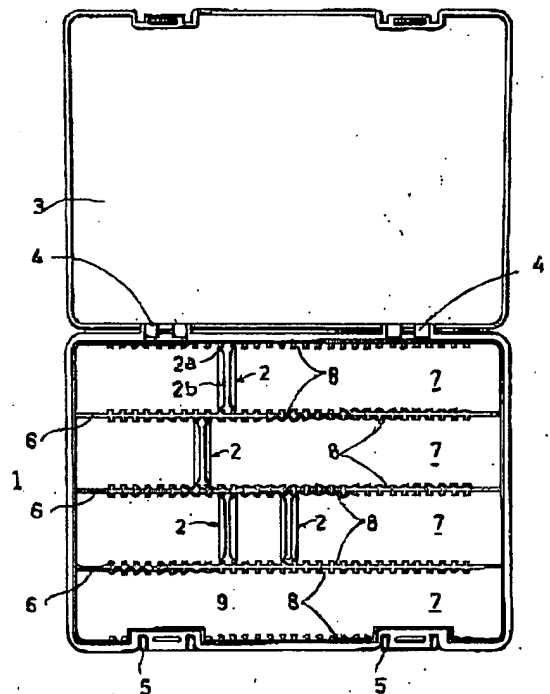
弁理士 藤田 邦彦 (外1名)

(54) 【考案の名称】 小物入れの仕切り構造

(57) 【要約】

【課題】 身容器の内部を着脱自在の仕切り板によって複数の収容部に区画する小物入れに関し、収容部に入れた小さな収容物の取り扱いが容易なものとする。

【解決手段】 身容器1の壁間に装着する仕切り板2の側面及び底面に鍔2aを突出形成し、鍔2aは外周縁の厚みがごく薄く形成されるように主体部2bとをアール面で連続させる。身容器1の壁と仕切り板とはアリ嵌合によって密嵌合させ、仕切り板2が身容器1の底面に接する装着状態で安定させる。これにより、仕切り板2によって区画される収容部に入れた小さな収容物が、収容部の隅に入り込んで取り出しにくいといった欠点を解消することができる。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】身容器の内部を着脱自在の仕切り板によって複数の収容部に区画する小物入れにおいて、身容器の壁間に装着する仕切り板の側面及び底面に鋸を突出形成し、該鋸は外周縁の厚みがごく薄く形成されるように鋸と仕切り板主体部とをアール面で連続させたことを特徴とする小物入れの仕切り構造。

【請求項2】身容器の壁間に装着する仕切り板は、仕切り板の側面に形成したアリもしくはアリ溝と、身容器の内壁面に形成したアリ溝もしくはアリとによって密嵌合させることを特徴とする請求項1記載の小物入れの仕切り構造。

【請求項3】身容器の壁間に装着する仕切り板は、身容器の内壁面に形成したアリ溝と仕切り板の側面に突出形成したアリによるアリ嵌合とし、身容器の内壁面に形成するアリ溝は下方に向けて狭まるテーパ状に形成するとともに、仕切り板の側面に突出形成するアリは側面の上半部のみ形成し、仕切り板をアリ嵌合の下端まで挿入した位置で身容器の内壁面に形成したアリ溝と仕切り板の側面に形成したアリを密嵌合させることを特徴とする請求項1記載の小物入れの仕切り構造。

【請求項4】身容器の内部を縦方向もしくは横方向の仕*

2

*切り壁によって区画し、該区画壁の左右両側面及び身容器の外周壁を身容器の壁とし、区画壁間及び／又は外周壁と区画壁の壁間に仕切り板を装着することを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の小物入れの仕切り構造。

【請求項5】身容器は、外周壁の内面下端部及び区画壁の側面下端部をアール面で形成し、区画壁の側面に形成するアリ溝もしくはアリを小さなピッチで連続的に形成したことを特徴とする請求項4記載の小物入れの仕切り構造。

【図面の簡単な説明】

【図1】開蓋した状態の小物入れ全体の平面図、

【図2】小物入れの身容器の、一部分のみの拡大平面図、

【図3】図2の III-III 線断面図、

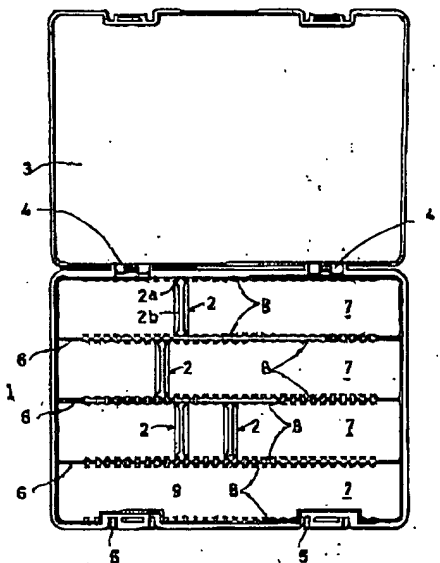
【図4】図2の IV-IV 線断面図、

【図5】二つの区画壁の間に仕切り板を装着した状態であって、仕切り板を拡大して示す斜視図。

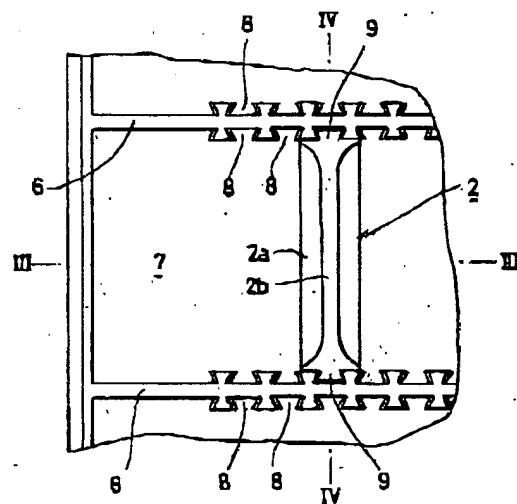
【符号の説明】

1…身容器、 2…仕切り板、 2a…鋸、 2b…仕切り板主体部、 3…蓋、 4…ヒンジ、 5…係止具、 6…区画壁、 7…収容部、 8…アリ溝、 9…アリ。

【図1】



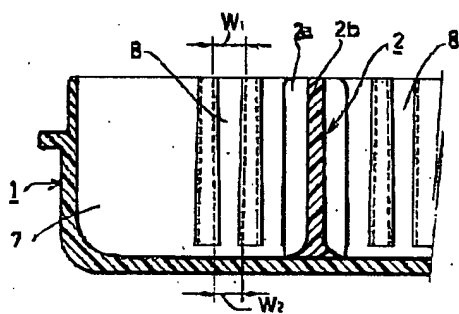
【図2】



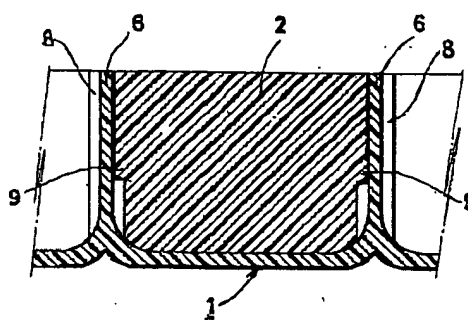
(3)

美登3069109

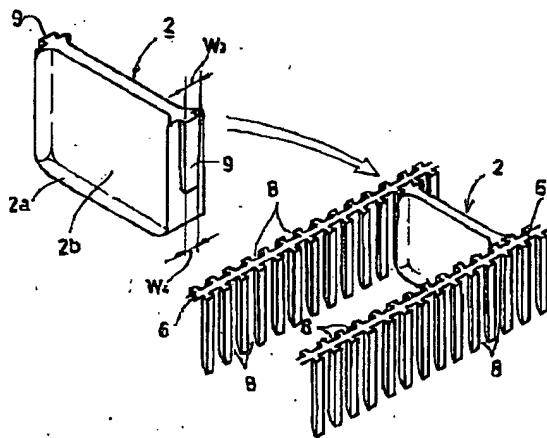
【图3】



【图4】



【图5】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、身容器の内部を仕切り板によって複数の収容部に区画する小物入れ、例えば釣り具の小物やビスやナットといった小物を整理して収容することができる小物入れに関し、特に小さな収容物の取り扱いが容易な小物入れの仕切り構造に係る考案である。

【0002】

【従来の技術】

身容器の内部を仕切り板によって複数の収容部に区画する小物入れは広く利用されている。従来の仕切り構造は、平板状の仕切り板によってその内部を複数の空間に区画している。身容器の内部を仕切り板によって複数の収容部に区画するに際し、身容器の内部の一定方向に仕切り壁を設けておき、身容器の外周と区画壁の間及び区画壁と区画壁の間を仕切り板で区画し、より多くの収容部を形成する仕切り構造も知られている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

従来の仕切り構造は、平板状の仕切り板によって複数の収容部に区画しているため、収容した小物が釣り針、擬似餌その他の釣り用小物、ワッシャやビスのように特に小さいものである場合、収容部の隅に入り込んで取り出しにくい場合があった。また、収容した小物の一部が仕切り板の下にもぐり込んでしまう場合や、仕切り板そのものがガタついたり外れる場合が少なくなかった。このような従来技術の欠点に鑑み、本考案は収容した小物の取り扱いが容易な仕切り構造を実現することを目的とするものである。また、本考案の別の目的は仕切り構造そのものをより丈夫なものとし、仕切り板がガタついたり外れたりすることがないものを実現することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本考案では身容器の内部に装着する仕切り板の形状を

工夫した。すなわち、身容器1の壁間に装着する仕切り板2の側面及び底面に鋸2aを突出形成する。突出形成した鋸2aは外周縁の厚みがごく薄く形成されるように鋸2aと仕切り板主体部2bとをアール面で連続させる。これにより、仕切り板2を装着したときに、ごく薄く形成された仕切り板2の鋸2aの外周縁と身容器2の底面及び内側面との間に段部形成されることなく装着される。したがって、収容した小物が収容部の隅に入り込んで取り出せないという事態を避けることができる。

【0005】

身容器の壁間に装着する仕切り板は、仕切り板の側面に形成したアリもしくはアリ溝と、身容器の内壁面に形成したアリ溝もしくはアリとによって密嵌合させることによってしっかりと安定した状態で装着することができ、仕切り板が浮き上がってその下に収容物が入り込むようなことを防ぐことができ、仕切り構造そのものを丈夫なものとすることができる。

【0006】

【考案の実施の形態】

以下、本考案の小物入れの仕切り構造の好ましい実施の形態を添付の図面に基いて説明する。

図1は開蓋した状態の小物入れ全体の平面図、図2は一部分のみの拡大平面図、図3、図4はそれぞれ図2のIII-III線及びIV-IV線断面図である。

【0007】

図1に示す小物入れは、ポリプロピレンやポリエチレンといった合成樹脂材で成型し、釣り具入れとして擬似餌やルアーなどを収容して携行するもの、あるいはビスやナット、ワッシャといった工具の小物入れとして利用することができるものである。比較的偏平に成型した身容器1はヒンジ4、4によって開閉自在の蓋3を装着し、係止具5、5によって密閉状態に閉蓋することができる。

【0008】

身容器1は、一体に成型した横方向（長手方向）の三つの区画壁6、6によってその内部を四つの横長の収容部7、7に区画し、四つの収容部7、7は仕切り板2によってより小さな収容部に区画して利用することができるようにしている。

四つの横長の収容部7, 7を仕切り板2によって小さな区画するには、身容器1の外周壁のうち長手方向の外周壁内面と、区画壁6, 6の側面に等ピッチで多数のアリ溝8, 8を形成しておき、側面にアリ9を突出させた仕切り板2を装着するようにしている。

【0009】

身容器1の壁間に装着する仕切り板2は、図2, 3及び図5に示すように、側面及び底面に鋸2aを突出させている。この鋸2aは、外周縁の厚みのごく薄く形成されるように鋸2aと仕切り板主体部2bをアール面で連続させている。具体的には、鋸2aと仕切り板主体部2bを連続させているアール面が鋸2aの外周縁に達するようにし、外周縁が鋭角的な断面形状に形成されるようにしている。これにより、仕切り板2を装着したときに、身容器1の底面や壁面と仕切り板2の表面とが連続的に接する。

【0010】

仕切り板を装着する方法として、身容器1の外周壁内面及び区画壁6, 6の側面にアリ溝8, 8を形成し、側面にアリ9を突出させた仕切り板2を装着することは先に述べた通りであるが、身容器1の外周壁内面及び区画壁6, 6の側面にアリを突出形成し、側面にアリ溝を形成した仕切り板2を装着するものであってもよい。また、図面上アリ溝8は、区画壁6, 6の側面に小さなピッチで連続的に多数形成しているが、1以上の比較的少数のアリ溝を形成するものであってもよい。しかしながら、図示例のように多くのアリ溝8を設けておけば、仕切り板によって区画する収容部の大きさを、なるべく必要最小限の任意大きさに区画することができ、効率的に多くの小物を収容することができる。

【0011】

さらに、身容器1の大きさそのものが比較的小さなものである場合や、収容しようとする小物が比較的大きなものである場合は、区画壁6を設けずに身容器1の内部を仕切り板2のみで複数の収容部に区画するようにすることもできる。この場合、仕切り板2を装着するためのアリ溝8（又はアリ）は、身容器1の外周壁のうち縦又は横の対向する内壁面にのみ形成しておけばよい。

【0012】

アリ溝8は、図3に示すようにアリの挿入口となる上端部の幅 W_1 を下端部の幅 W_2 よりも広いテーパ状に形成し、側面にアリ9を形成した仕切り板2を装着するとき、アリ9とアリ溝8が遊びのある状態で位置決めし、仕切り板2を押し込むことによってしっかりと密嵌合させることができるようにしている。仕切り板2を押し込んだ状態で仕切り板2下辺の外鍔が身容器の底面に密接し、収容部の底面と仕切り板2の下面との間に隙間が発生することを防止することができる。

【0013】

図示実施形態では図5に示すように、仕切り板2の側面に形成するアリ9を側面の上半部にのみ設けるとともに、アリ9の上端部の幅 W_3 を下端部の幅 W_4 よりも広いテーパ状に形成している。これにより、アリ嵌合をより確実なものとするとともに仕切り板2の装着操作を行い易いものとしている。すなわち、仕切り板2の上部を手指で持って、アリ9が形成されていない仕切り板の下半部だけを仕切り板を装着するべき収容部に挿入すると、鍔を形成することによって幅広となった仕切り板の側面がアリ溝を形成した壁面に沿うガイドとして機能し、仕切り板を装着する正しい姿勢で所望の位置に案内される。所望の位置において、仕切り板2を下に移動させると、最も幅の広い幅 W_1 のアリ溝上部に、最も狭い幅 W_4 のアリ9下端部を比較的容易に入れ込むことができる。

【0014】

なお、身容器1は、外周壁の内面下端部全周及び区画壁6の側面下端部をアール面で形成している。したがって、区画壁6によって区画形成される収容部7、7の下隅部には角が形成されないため、小さな収容物が角に入り込むようなことがない。収容部7を仕切り板2によってより小さな収容部に区画したときにも、仕切り板2の形状によっていずれの小さく区画された収容部の下隅部にも角が形成されず、すべての収容部が小さな収容物の出し入れに支障をきたさないアール形状に形成される。

【0015】

アリ嵌合によって仕切り板2を装着したとき、アリ嵌合の密着性によって仕切り板2がガタつかないように保持される。したがって、本発明の仕切り構造はポリプロピレン樹脂のように多少柔軟性を備えた合成樹脂材による小物入れに応用す

るとより効果的である。

図面上、仕切り板2の鋸2a上端は手に当たったときに安全なように丸みをつけている。また図示していないが、身容器の区画壁6上端の稜線は、安全のためアールもしくは傾斜面に面取りしておくのが好ましい。

【0016】

本考案に係る仕切り板は、身容器の壁間にしっかりと嵌合されるため、仕切り板が外れて収容物が混同するような虞がないと同時に、仕切り壁や区画壁が身容器の補強壁としても機能し、全体として非常に丈夫なものとなる。また、アリ溝もしくはアリを区画壁6のほぼ全長にわたって細かい間隔で連続的に設けたものでは、アリもしくはアリ溝を設けるための両側の肉厚部分が区画壁6の補強リブとして機能する。そのため、頑丈な区画壁となるため、小物入れとして使用する場合に安心して携行その他厳しい使用条件にも耐えるものとなる。

なお、小物入れ全体の平面形状を、例えばA4、A5、A6の大きさのように相似形に品ぞろえし、身容器の厚みを一定としておくと、釣行などに携行するに際してバッグ、カバン内に纏まりよく収容することができる。

【0017】

【考案の効果】

請求項1記載の本考案の小物入れの仕切り構造によれば、仕切り板によって区画される収容部において、仕切り板と身容器の底面との間に角が形成されず、かつ仕切り板と身容器の底面との間に隙間を発生させないため、小さな収容部が収容部の隅に入り込んだり仕切り板に引っ掛かることがなく極めて取り扱い易いものとなる。

【0018】

請求項2記載の考案によれば、仕切り板がアリ嵌合によってしっかりと装着されるため、仕切り板のガタつきや外れ、妄動を防止することができる。そして、仕切り板が強制的に嵌合する結果、仕切り板そのものが身容器の補強的機能を発揮し、全体として形態の安定した小物入れとなり、身容器の補強効果がある

【0019】

請求項3記載の考案によれば、仕切り板をより強固にアリ嵌合させて装着するこ

とができるとともに、仕切り板の着脱を容易に行うことができる。

【0020】

請求項4記載の考案によれば、比較的平面積の大きな身容器の小物入れをより多くの小さな収容部に区画することができる。

【0021】

請求項5記載の考案によれば、仕切り板によって形成される全ての収容部の、内面下端部の全周にわたって角張った部分ができることを防止することができ、収容物がより小さいものであっても、その取り扱いが容易なものとなる。